

ブラッセル日本人学校

ブラッセル日本人学校は、ベルギーの首都ブラッセル東部にあり、1974年9月、補習授業校として開校し、1979年には小、中学校からなる全日制が始まりました。児童生徒数は、平成29年度現在約300名で、小学部は6年生が1学級、それ以外が2学級ずつの11学級、中学部は1～3年生が1学級ずつの3学級、合計14学級の小・中併設校です。補習校も同じ校舎を使い、昨年度から補習校との連携を始め、お互いの授業見学をしたり、授業に参加したりするなどの交流を行っています。

昨年度は、「日本ベルギー友好150周年」という節目の年でもあり、世界遺産グランプラスで2年に一度行われるフラワーカーペットが日本のデザインで開催されるなど、さまざまな催しが行われる中、本校もその色合いを盛り込んだ運動会を開催しました。限られた時間の中で準備を進め、児童・生徒・教職員・保護者等が一丸となって取り組み、素晴らしい運動会を創りあげました。



また、ブラッセル日本人学校は、「自らの考えを豊かに表現し、世界の人々と共に課題を解決していく児童・生徒を育成する。」という教育目標を達成するために、語学学習に力を入れています。小学部1年生から2年生まで、ネイティブの先生方によるフランス語の授業が実施されます。3年生からは、英語かフランス語を選択することになります。更に、英語検定などにも積極的に取り組み、中学部になると、会話の授業も入り、準2級や2級取得者が多く存在します。そこで培った語学をいかせる場として、現地校との交流が小学部1年生から、中学部3年生まで年に2回行われています。最初は戸惑いながらも交流を行うことで、「伝えようとするものの大切さ」に気付き、語学に対する興味関心が高まり、意欲的に学習に取り組んでいます。また、ベルギーを学ぶ校外学習も数多く計画されています。マルシェに出かけ、習ったフランス語を使って買い物をしたり、地元のスーパーやチョコレート工場を見学したりします。学校のシンボルであるマロニエの木と小便小僧(ジュリアン君)が出迎えてくれる緑豊かな環境の中で、児童生徒はのびのびと成長し、教職員一同充実した毎日を送っています。